

公益社団法人 地盤工学会関東支部



JGS Kanto

# Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

## 支部長就任のご挨拶「学会というものの存在意義」

支部長 東畑 郁生  
 関東学院大学 客員教授・東京大学 名誉教授

地盤工学会関東支部の皆様、このたび3年間の任期で支部長の職を務めることになりました東畑です。皆様とともに職務に邁進し、実を挙げたいと存じますので、ご支援やご意見をよろしくお願いいたします。

さて、学会の存在意義、会員にとっての価値は、個人と団体を問わず、社会的地位 (respect) や資質を向上させる場であること、と存じます。もちろん技術・学術の向上という大きな話題もありますが、それも含めて支部は地位と資質の向上に注力したいと考えます。すると具体的にはどのような手段があり、すでに何がなされており、今後さらに何をすべきなのでしょう？

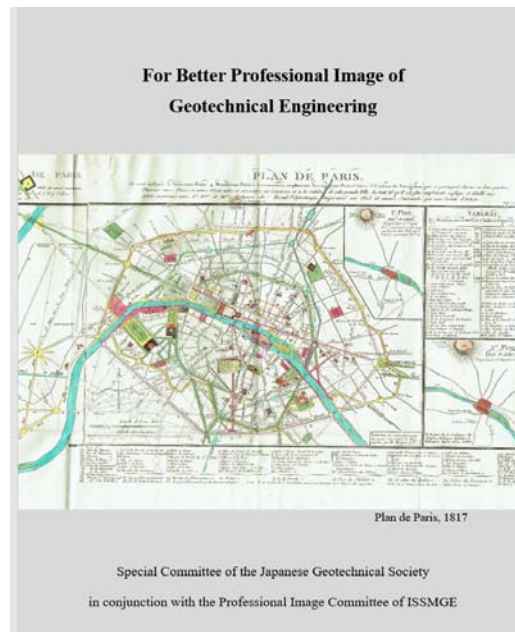


支部ではすでに多様な活動が展開されていて、ここですべてを取り上げることは不可能です。それでも、年に一度の支部発表会は、個人のレベルで支部の存在を実感していただける機会であり、これについて触れないわけにはまいりません。支部発表会と全国大会とで内容が重複する、全国大会と雑誌等への寄稿にも重複するから時間の無駄！という感想も聞いたことがありますが、それは見方によって全然違ってくると考えてください。つまり、技術・学術の考究には終わりということがありません。現場の事例など常に新しい情報が入り、自分の中で考え方が進化していきます。それなのに進化が終わって内容が固まるまでは発表しない、そう考えていては、世間に知ってもらうタイミングは永遠に訪れないでしょう。「とりあえずここまで来ました、すごいでしょ」、これを繰り返しているうちにレベルが上がっていくものです。文章やパワポにまとめ、読んだり人前でしゃべっているうちに欠点に気づいたり新しい発想が湧いたりするのも、決して珍しいことではありません。このような自己向上プロセスの入り口として支部発表会をとらえていただければと存じます。支部の発表会は研究発表会ではありません。会員各位の腕自慢大会です。個人の実績を誇っていただくことが、地盤工学、建設工学全体の地位向上につながってまいります。

特別会員の方々にとって、学会の存在意義は何なのでしょう？これは世界のあちこちで問われている事柄です。まず支部発表会は、特別会員さんにとっても業績自慢の機会です。発表会を活用して業績自慢が効果的に進むよう、発表時間や成果の対外発信スタイルを工夫いたします。また地盤工学という職業の社会的な地位向上は、大きな未達課題です。私は本部で地盤工学の社会的地位向上推進委員会の委員長を務め、下図のように英文和文で二つ報告が既にまとまっています。その結論を端的に申し上げますと、地盤工学には人類の幸福のために大きな貢献をしてきた事実がある、そして今後もそのポテンシャルが高い、しかし世間はそれを認識していない、その無知の故に世間は損をしています(ジオリスク)。すると支部としてはどのように対処すべきか、ということになりますが、社会全体に地盤技術に関する認識を共有してもらい、地盤工学者は技術を通して社会に貢献する、これに尽きると存じます。



日本語版報告書表紙



英語版報告書表紙

小さいことを言いだせば立場によっていろいろな考え方があり、それらが相反することは不思議ではありません。しかし違った考え方にもそれなりの意味がある、それを知ることは重要なことです。たとえば自然の産物であって均質でもなく品質検査もされていないのが地盤です。したがって事業の実施に当たっては地盤調査を行うことが重要です。医師が手術に先立ち念入りに検査をされるのと同じです。これが調査に従事するエンジニアの考え方ですが、他方、発注者側には異なる意見が存在します。たとえば、社会保障、高齢者の医療、少子化対策など喫緊の課題が山積する中で、地盤調査に予算を支出することのコスパはどうか、広い視点に立てば、正確な調査よりも抜本的な軟弱地盤対策が見つかるのではないのか。これらの意見にも、もっともな理由があり、地盤調査者からしっかりした対応をすることには困難がありました。対応を志す会員各位には、上記委員会の報告書の内容を自由に使っていますが、それにも増して、日ごろから職種の違いを超えた相互理解が必要で、私はその実現に努めます。

最後に、新しい工夫について申し述べます。地盤にはまだまだ予想外の事態の発生することが多く、そのたびに社会を騒がせております。発生直後には社会的な関心も高く、報道に学界シニアの方が登場し、いろいろ意見をおっしゃっています。しかし報道では紙面にせよ放映にせよスペースの制約が厳しく、端的な結論しか社会に伝わりません。ここに学会が果たせる役割があるのではないのでしょうか？問題となっている事象について、できれば異なる立場から意見をまとめて発表いたしたい。あくまで個人的

意見としての発表であることは、報道がご意見を引用するときと同じです。ただし学会の特徴は、1000字程度の詳しさがあること、異なる意見を平等にお示しすることにあります。意見発表は署名つき（内容への責任を表す）が基本ですが、いろいろなご事情のあるケースもあるでしょうから、あらかじめ匿名発表者リストを分野ごとに用意しておき、問題の発生後には直ちに対応することが大事と考えます。

それやこれやで思いつくことはたくさんあります。他団体とのコラボも重要です。私の特徴は、フットワークの軽さにあります。しかし他方では、事にあたってできない理由を一生懸命考えてしまうことがよくあります。それは頭脳と経験と時間の無駄遣いであって、まことにもったいないことと思います。代わりにどうすればよいのかと、代案を探すべきなのでしょう。ただし本当に注意しなくてはならないことを無視してはなりませんし、ときには撤退する勇気も必要でしょう。また私の思いつかない発想も当然たくさんあるはずで、その意味で、支部の方々とは頻りに意見交換し、どうすれば困難を突破できるのか、という方向で相談させていただく所存です。3年間で関東支部がさらに発展し、今年に関東大震災100周年や来年の支部発足20周年がプラスの意義を持ちますことを祈念して、私の支部長就任のご挨拶といたします。

## 地盤工学会事業企画賞受賞報告

「地盤工学のあり方—応用地質学と地盤工学の協働を考える—研究委員会」報告および提言（案）

関東支部 地盤工学のあり方-応用地質学と地盤工学の  
協働を考える-研究委員会  
委員長 末岡 徹

この度の事業企画賞受賞は、委員会メンバーはもちろんのこと、多くの関係者のご協力・ご尽力のおかげであり、改めて謝意を表します。

応用地質学及び地盤工学の両学術は、最近多発している地盤災害や建設事故と密接な関係があり、課題解決に際して両学術の協働が求められています。なお、2022年4月より会長特別委員会としてその継続的かつ発展的に活動を行っており、両学術の協働に関する提言を発表する予定です。



写真-1 表彰式

「土の締固め管理-現状・新たな展開・展望-」（書籍）

関東支部 土構造物の要求性能の実現を目指した  
盛土締固め管理の合理化に関する研究委員会  
委員長 龍岡 文夫  
幹事長 平川 大貴

この度、「土構造物の要求性能の実現を目指した盛土締固め管理の合理化に関する研究委員会(2017～2020年、成果普及活動2020～2023年)」の成果の一つである、書籍「土の締固め管理—現状・新たな展開・展望—、総合土木研究所、ISBN 4915451224」に対して令和4年度事業企画賞をいただきました。

当委員会に対してご支援を頂きました皆さま方に御礼申し上げます。本委員会の活動に対して、関東支部には、第54回地盤工学研究発表会でのディスカッションセッションへのご推薦、関東支部発表会でのディスカッションセッション(2020年11月)やシンポジウム(土の締固め管理の合理化に関するシンポジウム、2022年12月)の開催、本賞をいただいた書籍の発刊に際して事務的な事柄に対して多大なご

支援を頂戴しました。また、(株)複合技術研究所には会議室をご提供いただきました。(株)総合土木研究所には、本書籍の印刷以外にも雑誌「基礎工」にて本委員会関連の特集(Vol.48, No.11, 2020年およびVol.50, No.4, 2022年)していただきました。

表彰いただいた書籍は、本委員会メンバー(産学官35名)にて土の締固めに関する様々な課題に応えるべくとりまとめたものです。国内外の土の締固め管理に関する技術・基準類の現状に加えて、新たな締固め管理法を含めた展望を紹介しています。多くの方々に本書をご活用いただければ幸いです。



写真-2 委員会メンバーの記念撮影



写真-3 JGS 会館にて記念撮影



## 特別講演会「既存杭の撤去・埋戻しと新設杭の設計・施工」開催報告

関東支部

副幹事長 金田 一広（千葉工業大学）

地盤工学会関東支部では毎年、関東支部総会併せて特別講演会を実施している。令和4年度は特別講演会「既存杭の撤去・埋戻しと新設杭の設計・施工」と題して、桑原文夫先生を講師として令和5年4月25日午後16時から午後17時まで、地盤工学会会館地下大会議室よりZoomウェビナーを用いたオンライン配信の講演会として実施した。

本講演会は「新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会（平成30年～令和4年）の成果報告と書籍「既存杭の撤去・埋戻し方法とその影響を受ける新設杭の設計・施工」の紹介を含む内容で、昨今の建物リニューアル時の杭の問題ということもあり、学会関東支部のホームページだけでなく、学会のメーリングリストなど広く全国に広報したこともあり、205名の聴講者に参加いただき、盛大なオンライン講習会が開催された。

参加者はゼネコンや杭メーカーなど実務に携わる技術者が多く、行政あるいは学生などの参加もあった。地盤工学会の会員・非会員構成では、約20%の非会員の参加があった。コロナ禍ということもあって開催形式がオンラインであったため、参加者も関東のみならず関東以外からも多くの参加いただいた。時間的な制約もあったが、講演会後数件の質問を受けるなど活発な議論もあった。

さて、研究委員会としての報告会は令和4年6月30日13時～17時にZoomウェビナーで開催しており、259名もの参加者があった。今回の特別講演会ではその中の一部を抜粋した内容であったが、研究委員会の活動を改めて広く地盤工学や建築基礎構造の技術者に知っていただく良い機会になったと思われる。現在までの成果について書籍として発刊されているため、興味のある方はご購入いただければと思う。

オンラインで開催し、参加費は無料であったため日本全国から多くの会員・非会員のかたに参加いただけた。今後ポストコロナの時代になっていくと思われるが、対面、オンラインあるいはハイブリッドによる講演会の開催など模索し、地盤工学会の会員のニーズにこたえられるような企画を実施していきたいと考えている。

行事 URL（研究委員会報告会）：<https://jibankantou.jp/report/20220630.html>



写真-1 桑原先生のご講演の様子



写真-2 菊池支部長のご挨拶の様子

## 「液状化に係わる被害のメカニズムと名称を考える委員会」活動成果報告会

関東支部 液状化に係わる被害のメカニズムと名称を考える委員会  
幹事 平松 登史樹 (基礎地盤コンサルタンツ(株))

1964年のアラスカ地震と新潟地震を契機として工学的な研究が始まった“液状化”は、今や工学の範囲を超え一般にも普及した用語となりました。“液状化”が指す現象や地震被害の範囲は様々に広がり、現在では色々なメカニズムによるものが過剰間隙水圧の上昇というキーワード一つで“液状化”と呼ばれている様であります。名称がきちんと定義されていなければ、議論が噛み合わず誤解を与えてしまう恐れもあります。そこで本委員会ではメカニズムに関してはなるべく多くのケースを、用語については現在使われているものを調査しまとめることといたしました。

本報告会は下記に示す日時・方法・プログラムで行われ、多くの方々にご参加いただきました。本委員会の成果が皆様の研究・業務の一助となりましたら幸いです。

- ・開催日時：2023年8月2日（水）
- ・開催場所：Zoom ウェビナーによるオンラインリアルタイム動画配信
- ・参加人数：99名

表 プログラムと講師

13:00 ~ 13:05	はじめに	吉田望 委員長
13:05 ~ 15:05	1. 液状化のメカニズム	安田進 委員 吉田望 委員長 三上武子 委員 石川敬祐 幹事 原田健二 委員
15:05 ~ 15:20	休憩	
15:20 ~ 15:45	2. 液状化の定義	吉田望 委員長
15:45 ~ 16:20	3. 液状化に関する用語	吉田望 委員長 飛田善雄 委員
16:20 ~ 16:40	4. 文献に示される用語と被害	吉田望 委員長 沢津橋雅裕 委員 加藤謙吾 委員
16:40 ~ 16:45	おわりに	吉田望 委員長

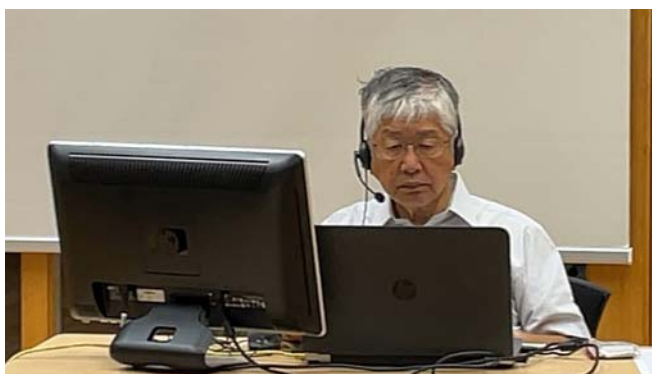


写真-1 吉田委員長発表の様子



写真-2 委員発表の様子

## 2023 年度地盤工学会関東支部賞候補募集要項

公益社団法人 地盤工学会関東支部

地盤工学会関東支部では、「地盤工学会関東支部技術賞」「地盤工学会関東支部功績賞」および「関東支部発表会優秀発表賞」の3つの賞を設け表彰する事により、その業績を讃え、合わせて関東支部活動の活性化を目指しております。このうち、「地盤工学会関東支部技術賞」と「地盤工学会関東支部功績賞」の候補者の募集を行います。これらの賞は、支部会員の地盤工学的観点から優れた工事の業績、技術の開発と実用化、創造性等に優れた学術成果、地盤工学関係技術者の育成や技術力向上、学会のPRなどへの業績や社会的地位向上に貢献を行った活動に対し表彰し、その成果を讃えるものです。以下の募集要項に基づき、奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。なお、「関東支部発表会優秀発表賞」については、関東支部発表会実行委員会の規程に基づき、別途表彰を行います。

**受賞対象：**関東地域に関係する次のいずれかに該当する業績を対象として、個人（複数可）または団体に授与する。

但し、関東支部あるいは地盤工学会の他支部において表彰を受けた業績については応募することはできない。

関東支部賞の2つ以上の分野に同時に同じ（もしくは同等と判断される）業績で応募することはできない。

### 地盤工学会関東支部技術賞：

- ①地盤工学的観点から優れた工事の計画，調査，設計，施工，計測および維持管理等に関する業績等
- ②活用性，汎用性に優れた技術の開発および実用化等
- ③創造性，特殊性を有する学術的に優れた研究論文および研究報告等

### 地盤工学会関東支部功績賞：

- ①地盤工学関係技術者の育成および技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績等
- ②地盤工学のPRおよび社会的地位向上に貢献をしたと認められる業績等
- ③地盤工学会会員として関東支部の活動に永年従事し、顕著な貢献をしたと認められる業績等

**対象者資格：**受賞対象者の資格は、特に設けない。ただし、地盤工学会関東支部功績賞の③については、支部会員（正会員，特別会員），および支部会員を代表とする機関あるいはグループとする。ここで、支部会員を代表とする機関とは支部会員が代表を務める機関とする。また、特別会員は特別会員である機関の下部機関についても応募対象者とする。なお、特別会員に属する非会員の個人を代表とするグループについては応募対象者とししない。さらに、ここでの会員とは応募時点において会員であり、かつ推薦締切日において引き続き会員であるものとする。

**応募の形式：**推薦とします。自薦・他薦を問いませんが、推薦者は関東支部の正会員（関東支部表彰委員を除く），または特別会員であること。ただし、関東支部が主催する委員会活動および行事などは応募の対象外です。

**審査：**地盤工学会関東支部の表彰委員会により審査を実施し、受賞者を決定します。必



要に応じてヒアリングを実施いたします。

発表：受賞決定の場合には、直接該当者に通知します。

表彰：2024年4月の関東支部通常総会において行い、受賞者には賞状・副賞を贈ります。

推薦受付：2023年9月8日（金）より2023年11月24日（金）まで。郵送の場合、当日消印のあるものを有効とします。

提出先：封筒の表に、「地盤工学会関東支部賞○○○○○賞候補推薦」と記入のうえ、下記へ直接持参するか、あるいは書留で郵送してください。

〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2JGS 会館内

公益社団法人 地盤工学会関東支部

電話 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

※ 推薦書は地盤工学会関東支部の website よりダウンロードください。

<https://jibankantou.jp/event/2022kantouaward.html>

(提出資料)

- |  |       |     |
|--|-------|-----|
| 1.推薦書  | ..... | 1部  |
| 2.業績を示す資料（該当する業績ごとに以下に示す資料）                        | ..... | 10部 |
| 地盤工学会関東支部技術賞①, ②：該当業績を記した論文または業績の内容が分かる説明資料やパンフレット |       |     |
| 地盤工学会関東支部技術賞③：当該研究論文もしくは研究報告, 1編                   |       |     |
| 地盤工学会関東支部功績賞①, ②：業績リスト（出典明示）と代表的資料のコピー3編           |       |     |
| 地盤工学会関東支部功績賞③：地盤工学会における活動履歴と業績リスト（出典明示）            |       |     |

---

2022年度 地盤工学会関東支部賞技術賞 受賞コメント

---

「厚さ2mmの極薄供試体を用いたベントナイトの膨潤・透水特性評価試験技術の開発」

王海 龍：早稲田大学 理工学術院 国際理工学センター

伊藤大知：早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科

本試験技術は、高レベル放射性廃棄物の地層処分で緩衝材としての使用が有望視される、ベントナイト系材料の設計・性能評価において重要な指標となる膨潤圧と透水係数を迅速かつ精度よく計測できるのが特長です。厚さ2mmの極薄供試体を用いることで、膨潤圧試験では1,2日程度、透水試験では1,2週間程度に短縮し、従来法のおよそ1/10となる短期間での測定が可能となりました。

---

【行事報告】

日 程	行事名称	場 所
2023.04.25	特別講演会「既存杭の撤去・埋戻しと新設杭の設計・施工」	オンライン
2023.05.17 2023.05.24	共催行事：（一財）土木研究センター・（一社）地域国土強靱化研究 第3回技術者講座「最近の防災・減災技術」	茨城県産業会館 とオンラインの 併用
2023.07.04	後援行事：（一財）災害科学研究所 「地盤調査・探査手法の最前線 および地質情報のDXによる連携」講演会	会場とオンライ ン併用
2023.07.07	共催行事：（一社）地域国土強靱化研究所「創設3周年記念フォー ラム」	会場とオンライ ン併用
2023.08.02	「液状化に係わる被害のメカニズムと名称を考える委員会」活動成 果報告会	オンライン
2023.09.28	出前授業「東京都立小石川中等教育学校 サイエンスカフェ」	東京都立小石川 中等教育学校
2023.09.28	栃木県グループ「那須野が原現地巡検および勉強会」	那須塩原市那須 が原博物館 他
2023.09.29	会員サービスグループ ～ 昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和 に語り継ぐ～第5回「ジオテク語りべ会」	オンライン

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧下さい。

【行事予定】

日 時	行事名称	場 所
2023.10.20	「ゼネコン、研究所、鉄道事業者を経験したトンネル技術者として地盤 工学に期待する事」	ハイブリッド
2023.10.21	会員サービスグループ 第16回ソイルストラクチャーコンテスト仲間 とチャレンジ！激しい揺れから建物を守れ！～「液状化対策工」～	日本大学理工 学部船橋キャン パス
2023.11.02	第4回若手技術者を対象とした意見交換セミナー	東京大学生産 技術研究所
2023.11.15	後援行事：（一財）災害科学研究所「インフラ分野におけるDX－現在地 を語る2023－」	オンライン
2023.11.22	「第20回地盤工学会関東支部発表会（GeoKanto2023）」	国立カニピック記 念青少年総合セ ンター
2023.11.30 12.01	共催行事：国際ジオシンセティックス学会日本支部「第38回ジオシン セティックスシンポジウム」	東京大学生産 技術研究所
2023.12.02	後援行事：埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター 令和5年 度“彩の国”市民科学オープンフォーラム「災害に強いまちづくり」	埼玉大学

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。  
登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、  
E-mail : kantouevent@jiban.or.jp または FAX : 03-3946-8699 までお申し込み下さい。



～関東大震災オリジナル写真のご紹介～



写真-1 関東地震横浜谷戸橋



写真 2-関東地震被災横浜

【会員の 大里 重人様、所蔵写真】

(川野 健一：企画総務グループ 幹事)

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部

〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 E-mail : jgskantou@jiban.or.jp

URL: <https://jibankantou.jp>